



ぬ心にちてをまらぬはまきり
二上山に藤るれ当麻の寺につま
きりく 一会弥勒仏則滅主号羅
有説まじま 八方法宣教皆是阿弥
陀ともありまきにい 釋迦もわ
子孫ハみりい 一節よ心なるすま
市を阿彌陀仏と せぢふまらば

我もなまらまら 二ツハハ
新りら 一まら 一はたの
に 一まら 一まぬすれ糸写
ちぬりまのいとれ 二色よあま
ぬらして 一まら 一渚仏の誓い
まら 一まら 一超世の忠
れ中 一まら 一乃雲

常麻の池さとも又麻寺を中
ツエカレ
 まい 是がう池さ蓮れいと所すりま
 て清り其故子深殿の井を中とも
ツエカレ
 ありま麻寺 是は深古又この
 池はりめぬれ ニエ 色さぬく所さ
 法の兒佛は法ありとも子れともい
 りやまゝ糸の唯一筋う一心不乱子

市を河孫院仏 宜有種寺人れ之
ツエカレ
 則これと孫院一教るれはく又是
 る新花桜つ子のまもりかりり
 是もあちか空樹と名くは ツエカレ 宜能
ツエカレ
 糸深く ツエカレ 擲てほさけ橋木の華
 も心れり故子蓮の色は暖をいり

此山子こも望みけし
毎日讀誦し念ひけり
新小様禱うりくき身此
あはてりけりおのち
と一心不乱に觀会し
まハ畢命を期しては
とちうりて一向に
此山子こも望みけし
毎日讀誦し念ひけり
新小様禱うりくき身此
あはてりけりおのち
と一心不乱に觀会し
まハ畢命を期しては
とちうりて一向に

入給ふ所ハ山陰に松吹
去くてさあけり夏を
もたえくお心再と寸
稱名觀会の麻上座
客ハうら寒きやち
若居の魚鱈と末王
さいりがる人

十
まゝに如月中乃又日あぐ志しと時
乃時節ありは事平疎るこそたふと
此古よ事りるは事れ為よ来る
と及るもやいりるる今も何
とう行く心海にま行ありへれ紀居
地女玄夢中へ現来何のと
いれもあへ心ハ多るうてた如

十
少く吳香薫し喜樂の了あすきり
しや様人よいと後中てあは山の
居上のうけと及あの上の山と
人多心へとまへと及此あまられほ
早山なる故よ居上玄岩と及中也
老の坂をれはあらのなちあにたかて
阿都り多し紫をよ葉くあうり

かく有縁寺の事
 あり及^上直^下て辛特
 とお^上ましや
 し^上い^下もあ^上く^下縁^上及^下不
 馬^上波^下や^上る^下く^上妙音寺^下こ^上え^下見^上ら^下る^上
 歌^上舞^下の^上喜^下聲^上れ^下ま^上の^下あ^上く^下已^上顯^下達^上終^下ふ
 今^上夏^下中^上に^下に^上に^下
 口^上に^下く^上る^下る^上甲^下の^上精^下魂^上あ^下る^上ま^下り^上れ
 妙^上婆^下子^上の^下り^上と^下き^上杯^下濟^上淨^下出^上短^下報^上

侍^上に^下と^上こ^下き^上く^下以^上信^下心^上ま^下と^上と^下
 故^上に^下微^上妙^下女^上樂^下の^上塵^下界^上れ^下衣^上と^下あ^上り^下女^上
 覺^上た^下如^上の^下圓^上眼^下に^上在^下き^上り^下志^上り^下れ^上を^下宣^上
 と^上う^下け^上事^下ら^上げ^下す^上一^下ヶ^上は^下才^上去^下來^上
 の^上法^下味^上を^下な^上り^下り^上る^下縁^上や^下虛^上之^下界^上
 乃^上在^下嚴^上ハ^下眼^上多^下雲^上路^下ま^上り^下や^上き^下精^上妙^下
 法^上輪^下の^上身^下拜^上ハ^下聽^上寶^下刹^上の^下再^上に^下見^上る^下已^上

上卷
蕭然と可於曉れ心
また涼し
みりよのうあく克信の
心
むるーやましく時ハ人
をも誘ふ
如を則こくそ唯心
此降出強
たさまのまか
標元不控
為一
切世百説此強信
之法是為甚難
考にもこの法を
取す
志けま
反

上卷
信しるるりそ
わ
上卷
たれ頼り
執也や
頼り
慈悲品用
上卷
今心不亂
見し
るる
乱るる
上卷
十丁
五も
一
考
有難
や
後夜の
し
の
音
く
ふ
せ
う
れ
い
起
標
石
乃妙
身
打
見
仏
心
法
乃
色
そ
の
法
事
定も
あ
ま
さ
寺
定
的
遍
照
十
方
の
衆
生

